

「鷹巣中学校の地域探訪の取組」

1 学校名

長島町立鷹巣中学校

2 学年・人数

1年生（計54人）

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

- ・ 平成27年7月13日（月）事前学習（総合的な学習の時間）
- ・ 平成27年7月15日（水）地域探訪（温之浦古墳群，小浜崎古墳群，小向江古墳等）

(2) 発表の日時・場所

- ・ 平成27年10月30日（金）校内文化祭
- ・ 平成27年11月8日（日）長島町総合文化祭

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

- ・ 温之浦古墳群（ぬくのうらこふんぐん），小浜崎古墳群（おばまざきこふんぐん），小向江古墳（こむかえこふん）：古墳時代
- ・ 遣唐使船漂着の記念碑【唐隈港（からくまこう）】：奈良時代
- ・ 堂崎城跡（どうざきじょうあと）：中世
- ・ 黒之瀬戸大橋（くろのせとおおはし）：1974（昭和49）年

(2) 特徴

長島は古くから交通の拠点であるため町内の史跡には文化交流の様相が多く窺える。大和朝廷の影響が及んだと考えられる古墳群が多く存在している。また778（宝亀9）年，帰国途中の遣唐使船が漂着した唐隈港がある。鎌倉時代には，長島氏が地名を名乗って領有し，居城である堂崎城を築いた。1565（永禄8）年には島津氏が長島を攻撃し，長島はそれまで肥後国だったが以後島津領となり，薩摩国に属するようになった。

5 保存会や地域との連携の具体

本校第1学年では，総合的な学習の時間のテーマを「郷土から学ぶ」と設定し，郷土愛を育むための取組を行っている。小学校でも長島について学習しているが，今まで学習してきたことを更に深化させることを目的として，地域探訪という形で長島の史跡・名勝巡りを行った。

今年度は，町歴史民俗資料館に勤めている長島の歴史家に講師を依頼し，町内の史跡や名勝，歴史民俗資料館で直接ガイドをしてもらった。長島が発展した大きな要因となった黒之瀬戸大橋の建設の由来，内閣総理大臣への陳情など，人々の橋建設に対する熱い思いについても現地で話してもらった。バスの中では，長島に多い姓の由来について，学校が設置されている鷹巣の由来，長島に古墳が多い理由等について詳しく解説をしてもらった。

生徒は地域探訪を終えたあと，町内の文化財についてグループでまとめ，文化祭や町の総合文化祭に展示した。

6 活用の取組の工夫した点

生徒は、長島に古墳が多いことは知っているが、その由来や長島の歴史についてはあまり知らない生徒が多く、実際に古墳に行った生徒も少なかった。長島町古墳祭りの様子や小学校の時に歴史民俗資料館を見学したときのことを思い出すことで、長島は文化財の宝庫であることを再認識させることから始めた。

また、史跡・名勝について深く学ぶことで郷土を再認識できること、現地で解説を入れることで、古墳の形状や出土品の違いなどについて具体的に理解できることを目的として、地元の歴史家にガイドをしてもらう形で実施した。

調べ学習をするにあたっては、長島の良さを紹介させる形式に指定し、生徒の表現力を育むよう手立てを行った。

7 取組の様子



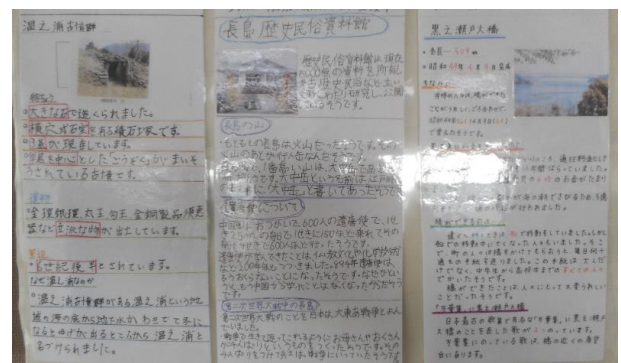
温之浦古墳



歴史民俗資料館



黒之瀬戸大橋「長田王」の和歌



生徒によるまとめ

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

(1) 生徒

- 古墳があるのは知っていたが、200基以上もあることにびっくりした。
- 黒之瀬戸大橋は、長島の人々による努力の結晶であるということが分かった。これから橋を渡るときには、そのことを思い出しながら渡りたい。

(2) 地域の歴史家

- 長島は古代から現代までの歴史と文化が豊富な島である。長島に生まれたことに誇りに持ち、先人たちが築き上げてきた長島をこれからも大切にしてほしい。

(3) 教職員

- 学校で郷土教育を推進するにあたり、史跡や歴史について教師が研修等をとおして学ぶ必要性を感じた。郷土愛をより一層育むことができるよう、地域の文化財を生かした郷土学習をより一層充実させていきたい。